

「伊仙中学校の伊仙町内文化財探訪の取組」

1 学校名

伊仙町立伊仙中学校

2 学年・人数

3年 32人

3 日時・場所

(1) 学習会等の日時・場所

令和3年9月24日（金） 総合的な学習の時間（伊仙町内）

(2) 発表の日時・場所

令和3年10月22日（金） 文化祭展示発表（本校校舎内壁面）

4 活用に取り組んでいる史跡の名称・時代・特徴について

(1) 名称・時代

ア 面縄貝塚（おもなわかいづか）

徳之島最南端の珊瑚礁の浅海に面した海岸砂丘上及び石灰岩地帯に立地する、縄文時代後期を中心とした集落跡である。

イ カムイヤキ陶器窯跡（とうきかまあと）

11世紀から14世紀頃に生産された焼き物の窯跡で、東西1.5km、南北800mの範囲に7支群に分かれて分布している。

ウ メランジ堆積物（たいせきぶつ）

約1億年前の地層を、20～12万年前の琉球列島周辺の海で形成されたサンゴ礁が覆っているもので、恐竜時代のメランジ堆積物と隆起サンゴの重なりを地表で見ることができる。

エ 検福穴八幡（銀竜洞）（けんふくあなはちまん（ぎんりゅうどう））

検福及びその周辺の人々が氏神となっている。幅5m、深さ200mほどの鍾乳洞で、洞内には地下水が流れ、夏でもひんやりする暗川である。

(2) 特徴

伊仙町内には、トマチン遺跡や面縄貝塚、犬田布貝塚といった縄文・弥生時代の遺跡から11世紀頃のカムイヤキ窯跡、幕末期の犬田布騒動記念碑等の歴史的な文化財や、メランジ堆積物のように地質学的にも大変、貴重な文化財が数多く残されている。

これらは歴史的な興味をかきたて、自然の造形の妙を味わうことができる貴重なものだが、生徒たちの多くはその価値を知らないのが現状である。この文化財探訪は郷土への関心を高め、郷土を大切にする心や態度を育むことをねらいとして、校外学習を一日行っているものである。

5 保存会や地域との連携の具体

町歴史民俗資料館の主事に同行していただき、それぞれの文化財の場所で説明をしていただいている。

6 活用の取組の工夫した点

見学場所について、資料を使って事前学習を行った。

7 取組の様子



【校内に掲示した校外学習のまとめ】

8 参加生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

【3年生生徒】

- ・ 徳之島が自然や文化面において豊かな島であるとは知っていたが、今回の学習で様々な史跡を巡り、地層の成り立ちや昔の人々の生活様式などについて更に深く学ぶことができた。そのことで、先人の生き方等に思いを馳せたり、今、徳之島で生きていることに対して誇りをもったりすることができた。今回の学びを大切にしながら、これからも徳之島の自然や文化、歴史などについて学び続けていきたい。

【教職員】

- ・ 世界自然遺産に登録された徳之島について深く学ぶ良い機会となった。今後は、徳之島の魅力について更に学びを深めるために、家族とともに楽しみながら探訪したいと思う。
- ・ 徳之島の歴史の奥深さや、地質学上も貴重な場所であることを再確認することができた。
- ・ 生徒たちにとっては、徳之島の歴史や文化について学びを深めることができたり、新たな発見があったりと、郷土の素晴らしさを再発見できるよい学習となった。
- ・ 素晴らしい徳之島の自然や文化を守り発展させるためにも、これから様々な学習会に参加し環境問題等について深く学ぶとともに、クリーン作戦へ参加するなど島民の一人として自覚をもって行動しなければならないと感じた。
- ・ 伊仙町歴史民俗資料館のスタッフの方に同行していただくことで、徳之島の自然・歴史・文化等について深く学ぶことができた。